



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏
tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp
発行 月報編集委員会 発行日 2018年6月3日 No. 49



photo by K. Sato

イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

ヨハネによる福音書 3章3節



シリーズ説教

『神の贈り物』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ3章1節〜12節

ファリサイ派に属し、ユダヤ人の議員であったニコデモが、ある夜イエスを訪ねてきました。夜、訪ねてきたことから、この人が人の目をばばかっていたことが想像されます。イエスはニコデモに「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と答えられたのです。

イエスが言われた「新たに」と訳されている言葉は、第一に「上から」、第二に「初めから」、そして第三に「新たに」という意味を持っています。「上から」「初めから」そして「新たに」生まれるということは、「神から生まれる」ということ、つまり「神によって新しくされる」という意味にちがいないのです。つまり、「信仰」とは、私たち人間の事柄ではなく、神によって私たちの内に起こされる出来事なのです。

信仰について考えるとき、私たちは信仰の父と呼ばれるアブラハムの信仰に触れる必要があるでしょう。

アブラハムが、まだアブラムと呼ばれていたときのことで、彼はすでに年老いて、「子をなす可能性がない」と考えていました。少なくとも、人の知識や常識、理屈というものによらなければ、不可能という答えしか見つかからない年齢に達していたのでした。しかし、主なる神は「あなたから生まれる者が跡を継ぐ」と言われ、「主は彼を外に連れ出して言われ」たのです。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。あなたの子孫はこのようになる」と。そして聖書は続けています。「アブラムは主を信じた」と。彼は人の常識や知識、理屈では到底受け入れられない神の約束の前に、それにもかかわらず「主を信じた」のでした。

ルターは、信仰について「神から与えられた賜物である」とも書いています。つまり、信仰とは私たち人間の内側から出てくる感情でも、知識によって獲得されるものでもなく、神が私たちに与えてくださったものであるということです。信仰は人間の側から何も出ず、ただ神が与えられるものを受け取るという単純さにあるのです。

さて、今日は三位一体主日です。キリスト教大聖典は、三位一体について「キリスト教における救いの経験の特色だと言える」としています。非常に理解が困難なキリスト教の教理と言えるでしょう。しかし、「キリスト教における救いの経験」から合合わないとしても、そうとしか言いようがないというこの結論に、私はかえって人間の思いを超えた神の思いを見るような気がするのです。

今日登場したニコデモは、「新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われたとき、知識に頼ってしまったために、理解することができませんでした。しかし、イエスが十字架の死を遂げるようになる局面で、ニコデモが属する集団のすべてがイエスを殺そうと同意する状況にあつて、ニコデモはイエスを擁護するような発言をしているのは驚きです。実はこのニコデモこそ、「新しく生まれた」一人なのではないでしょうか。同じように繰り返してではなく、神によって新たに生まれたことが、ファリサイ派の人々の中にあつて大胆にイエスを擁護する

発言をさせるに至ったのではないのでしょうか。彼は、その人生の中でイエスに出会ってから、少しずつ、しかし確実に「新しく生まれた」のです。礼拝はサービスと言い、神が私たちにサービス、すなわち奉仕してくださるときと考えられます。このことから、私たちが毎週の礼拝に集められるのは、神の奉仕を受けて新しく生まれるためであるとわかります。私たちは礼拝の場で、御言葉によつて神の恵みに養われ、聖餐の恵みによつてキリストの愛をいただき、祝福によつて聖霊の交わりにあずかるのです。神が恵みのうちに与えてくださる贈り物である信仰は、私たちを自分の力や思い、望みによつて生きるのではなく、神の力、思い、そしてその約束をただ信じて、生き始めさせる力なのです。

今日私たちは、私たちが深く憐れまれる神、キリスト、聖霊の三位一体の神が、すべてを担ってくださることを確信し、安心して生き始めるのです。これこそ神の贈り物ではないでしょうか。新たに生まれること、神の贈り物として、私たちは遣わされて生きるのです。(三位一体主日)

講演会報告

良寛とキリスト教・手毬と十字架

講演者 小副川幸孝

九州学院副院長
元藤が丘教会牧師

良寛は、キリスト教の生き方思想を体現した。良寛は、越後の国出雲崎（天領）の庄屋橋屋の跡取り息子として生まれた。性格は内気な人見知り癖。

13歳で学問塾に入り、15歳で名主見習いになった。しかし名主としては勤まらなかつた。当時米騒動が頻発、餓死者が出て名主は村人の争いを調停しなければならず、盗人の処刑にも立ち会わなければならなかつた。良寛は、性格上不向きであつた。一か月半で不合格になり、弟が後を継いだ。良寛は、曹洞宗光照寺にて修行に入る。国仙和尚と出会い、備中玉島（現倉敷市）圓通寺で禅の修行をする。この時の修行は、学ぶより勤労に励む事を第一とした。一日作らざる者は、一日食わず。（鈴木大拙全集にも禅は理屈ではない。説明出来ない。自分で修行して体得するしか方法はないとある。キリスト教も理屈ではなく、実際に各々の信仰体験でしか分からないのでしょう。類似性を感じました）食べ物がなければ、托鉢

鉢に行くのみ。食べ物が得られなければ、食べないだけ。掃除洗濯全て自分で行う。その結果、僧衣はいつもボロボロを着ていた。私が岐阜にいた時、しばしば禅宗のお寺で座禅をしたが、その中の一つのお寺の和尚はいつも質素な僧衣を着ていて、他のお寺の和尚とは違っていた。その和尚の講和は、いつも素晴らしい講話でした。

34歳の時に国仙和尚がなくなり、寺を離れ諸国を巡りあるいた。義提尼より和歌の影響を受け、越後蒲原郡国上村（現燕市）国上寺の五合庵にて、書を学ぶ。日がな子供達と鞠付き、カクレンボをして過ごした。（この子らと手鞠付きつつ遊ぶ春、日は暮れずともよし）という歌が残っている。

良寛の書は私には理解し難いが、形を極めるのではなく意思を込めるのが重点だから、気持ち遥かに低い私には到底理解出来ないのも当然なのでしょう。漢詩五百、和歌千五百が残されている。良寛がある家に宿泊しても何も難しい講話をする事はないが、家中が和やかな幸福に満ちていて、良寛がその家を去つてもしばらくこの雰囲気が続いたそうである。

牧師や和尚の説教は理論で話する

が、宗教は情緒的で理屈の世界ではないので聞いていて違和感がある。山上の説教に示される人間像「地の塩、世の光」マタイ5章13〜16。「腹を立ててはならない」マタイ5章21〜26。「復讐してはならない」「汝の敵を愛しなさい」マタイ5章38〜48。「施しをする時、祈る時」マタイ6章7〜15。「安息日に癒すイエス」マルコ2章27〜28。

九州学院では、普通生徒は通学に片道1時間半掛かる。朝練があるし授業後練習（運動部の）があるので、授業の午前中は大体机で眠っている。先生の講義は聞いてくれない。だけど勉強は良く出来る。孫が遊び呆けていても形式に促われて叱つたりしてはいけないう、勉強する事は理論が発達して情緒が引つ込むので良くないと先生はおっしゃりたかつたのか？

いずれにしても、教会にはモヤモヤした事が多い。韓国の教会半年（ルーテル以外でも同じ）では会食は毎回ご飯一膳と味噌汁1碗、じゃが芋と玉葱の炒め物であつた。エジプトでの2年間モスクには入れなかつたが、1日5回、会議中でもお祈りが始まり、面白い事に会長とか社長の方がお祈りの時間ながい。

少なくとも私が見た範囲では、酒は絶対飲まない。酒を飲むお金があれば寄付するのが当然と、イスラムの人は思っているのでしょうか？ イスラムの中では、エジプトは最も戒律が緩く（1990〜91年当時）、兄弟親戚近所の人等貧しい人を助けるのは常識であつた。

良寛で思い出すのは、経団連の会長だつた故土光敏光さんと、年収の大部分を学校に寄付（5千万円／年）、自分は毎日焼いた目刺しと庭の畑で取れる野菜とご飯、味噌汁だけだつた。ノーベル賞を受賞した大隅良典教授は、ノーベル賞の1億円は全て母校東京工業大学に寄付した。又他の賞で3億円獲得したが、そのうち1億円も母校に寄付した。その前にノーベル賞を獲得した、北里大大村智教授は故郷の葦崎に私費億円を投じて、葦崎大村美術館を建設寄付した。こんな人も居ますね。良寛と一緒に、美味しい物を食べようとか立派な洋服を着ようとか、立派な家に住むとかそんな欲望はないのですね。私は摺り切れた洋服を着ていても平気ですが、コロンボみたいに襦袢(?)を着て暮らしたいのが本音ですが。脱線しましたね。（報告 ○谷○介）

■教会BBQ

○原○輔

4月30日、教会BBQの日がやってきた。

とても良い天気になり朝から自動車バス等で現地集合だ。我々が着くとすでに多数のメンバーが来ていた。最終的にルーテルとカトリック併せて総勢80名弱、こんなに多くの人数が集まって、料理が間に合うのか若干不安になる。そうこうするうち10時になり佐藤牧師の開会の祈りで始まった。その後の施設の方からの説明も大事だ。

さあここから少しの間、皆はらばらの活動だ。火おこし、調理担当のメンバー、子供達と一緒に巻物(キノコの豚肉巻きでは?)を作るメンバー、そのままここでお話をするメンバー、クイズで遊ぶメンバーと別れていった。私たちはクイズ組だ、下のグラウンドの日陰に移動して遊んだが、○本姉がクイズに詳しいことがわかった。

そうこうするうちに時間は11時。お腹が空いたので、料理の進み具合を見に行くと、サラダと野菜炒めができていて、巻物と肉は焼いている途中だった。他のみんなからもお腹が空いたとの声

があり、できているものから食べようと言うことになり、神父様に食前の祈りを唱えていただき、食事の開始。

ここからは目が回る忙しさで、次から次へと料理を出していく、カトリックのお母様方も子供達と一緒においしそうに食べている。やがて焼けてきたステーキのできも良く、○田さんおいしかったよ！誰がどれくらい食べているかよくわからないまま、気がつくとも昼食の終わりの時間、まだ12時だ、だけども満足している。ここから片付け。



30分くらいでだいたい終わりグラウンドゴルフへ移動、全8ホールでの勝負。あちこちから元気な声がかかり、和気藹々とした雰囲気の中で勝負が進む。やがて楽しかった時間も終わり表彰タイムだ。1位は2名いたが、○本兄がホールインワンを出しており優勝だ(スコアは17)。2位は名○兄に。子供の部の優勝は、○井さんのお孫さんだった。表彰も終わり全員の記念写真、神父様の閉会の祈りと楽しさいっぱいで、BBQの一日が終わった。また来年が楽しみだ。

■女性会だより

5月13日 礼拝後に開催

出席者 13名

・聖書の学び

ルカによる福音書 24章13～24

「ピント外れの希望」

・その他

第24回 女性会連盟 総・大会

6月7日～8日 名古屋

「神の恵みによって共に生きる」

■教会ウェブサイトが新しくなりました。

<https://www.jelc-fujigaoka.org/>

NEWS

東教区伝道支援金をいたたいて作成した、新しいサイトが公開されました。どうぞ、お訪ねください。